

新しい本の御紹介 著者 NPO福祉用具ネット理事長 豊田 謙二
熊本学園大学社会福祉学部教授



筆者の豊田先生はこの本の中で、「一人ひとり」の関わりを社会福祉は忘れて
いる。一人ひとりがソーシャルワークの
基点である…、と主張されています。

2011年7月4日発行
発行所 ナカニシヤ出版
価格 2200円+税

目次

- 第1章 社会的なこと、日本とドイツ
- 第2章 なぜ公共性なのか
- 第3章 エコロジカルな循環と生活環境
- 第4章 社会的リスクと社会保険制度
- 第5章 バリアを低くして社会参加を
- 第6章 精神障害のある人を地域で支える
- 第7章 認知症のある人に添う
- 第8章 共生から新たな公共性の形成へ

「多様性における共生、＜添いの知＞からの共生づくり」

「一人暮らしとは、＜社会的なこと＞、つまり社会的に生活することである。その生活に不都合が生じれば、ソーシャルワークの援助が必要とされる。ソーシャルワークは「添いの知」の実践である。それは、医療現場での「科学の知」と対抗しつつ、新たな共生の社会を導くのである。」
（「はじめに」より）